

一、次の漢字の読みがなを、ひらがなで書きなさい。

- 1、掲 示 ()
- 2、抱 負 ()
- 3、干 渉 ()
- 4、麻 醉 ()

- 5、架 空 ()
- 6、治 安 ()
- 7、類 似 ()
- 8、垂 れ る ()

- 9、慰 め る ()
- 10、快 い ()

二、次の——線部を漢字に直し、かい書で書きなさい。

1、ゲームにむちゆうになる。

2、ビルをけんせつする。

3、さいがいに備えることが重要だ。

4、図書館から本をかりる。

5、ぐっすりとねむることができた。

5	4	3	2	1

三、次の1〜5の四字熟語の意味として適切なものを、下のア〜オよりそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- 1、試行錯誤
- 2、七転八倒
- 3、起承転結
- 4、自画自賛
- 5、一期一会

ア、自分で自分の行為や自分自身をほめること。

イ、苦痛のあまりころげまわり、もがき苦しむこと。

ウ、一生に一度しかない出会い。一生に一度かぎりであること。

エ、様々な方法を繰り返し、失敗を重ねながら解決方法を探ること。

オ、もったも基本的な文章の構成方法。物事の順序や、組み立て。

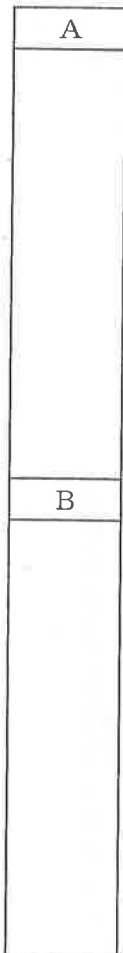
5	4	3	2	1

四、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

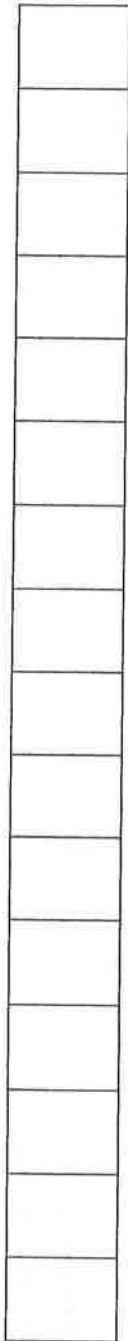
これも昔、天竺※1に、身の色は五色にて、角の色は白き鹿一つありけり。深山※2にのみ住みて、人に知られず。その山のほとりに大きな川あり。その山にまた鳥あり。このかせぎ※2を友として過※2ぐす。

ある時この川に男一人流れて、すでに死なんとす。「我を人助けよ」と叫ぶに、このかせぎ①、この叫ぶ声を聞きて、悲しみに堪へずして、川を泳ぎ寄りて、この男を助けてけり。男、命の生きぬる事を悦びて、手を摺りて鹿に向かひて曰く、「何事ももちてか、この恩を報ひ奉るべき」といふ。かせぎの曰く、「何事ももちてか恩をば報はん。ただこの山に我ありといふ事を、ゆめゆめ人に語るべからず。我が身の色五色なり。人知りなば、皮を取らんとて、必ず殺されなん。④この事を恐るるによりて、かかる深山に隠れて、敢へて人に知られず。然るを、汝⑤が叫ぶ声を悲しみて、身のゆくすゑを忘れて、助けつるなり」といふ時に、男、「これまことに理なり。更にもらす事あるまじ」と、返す返す契りて去りぬ。
※1 天竺…わが国および中国でいうインドのこと
※2 かせぎ…鹿

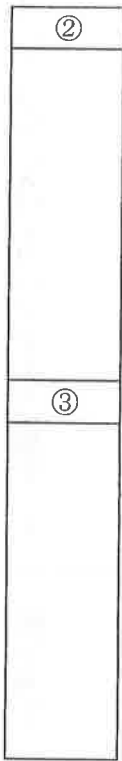
問一、二重傍線部A「向かひて」B「ゆくすゑ」を、それぞれ現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で答えなさい。



問二、傍線部①「かせぎ」の特徴がわかる箇所を、本文中より十五字程度で抜き出して答えなさい。



問三、傍線部②「助けてけり」③「皮を取らん」の主語を、それぞれ本文中より抜き出して答えなさい。



問四、傍線部④「この事」とはどのようなことを指しますか。簡潔に答えなさい。



問五、傍線部⑤「契りて」とありますが、「男」はどのような約束をしたのですか。わかりやすく答えなさい。



六、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

親子ほども年の違う原くんに叱しかられて、木山さんは肩をすぼめた。髪の毛が細かく震えている。

「すまない。……急いそぐうとすると、かえって手もとが狂くるってしまふんだ」

二日目も三日目も、こんな具合だったので、原くんはつくづく愛想Aが つきた。

「社長、もつとちゃんとした若いのを雇よってくださいよ。……あのおじさんじゃ、おれ一人のほうが大馬鹿ばかですよ」
電話で談判したが、社長は（Ⅰ）と応えた。

「まあ、そういわないで、もう少し長い目で見てやってくれよ。……木山さんは、慣れさえすれば、ちゃんとやっていく人だから」

「それまで、また我慢しなきゃなんないんですか？ いままで三カ月も、おれ一人で頑張ってきたのは、ちゃんとした人を雇ようって社長が約束してくれたからなんですよ」「若いのは、なかなかいいんだよ」

「だからって、五十面ごじゅうめん下げた、あんなおじさんを雇よわなくなつたっていいじゃないですか」

「木山さんは、早期定年で退職する前には立派な会社に勤めていた人だよ。……近いうちに、きっと慣れるにちがいないから、原くん、頼たのむよ」と、ついに押し倒されてしまった。仏頂面Bの原くんは、木山さんが頭を下げた。

「あんたに迷惑ばかりかけて申し訳ないが、わたしは懸命に努力しているんだ」すがりつくような表情をしてみた。

「なんとか我慢して、わたしをシゴいてもらいたい。一人前のスタンドマンにしてくれないか。……わたしには、ここよりほかに、もう働くところはないんだ」

そういわれて、原くんは気の毒あはれになった。（Ⅱ）ながら頷くほかなかった。（中略）
やがて三週間ほど経つと、原くんは少し見直す気持ちになった。

木山さんは毎朝早く出勤して、ガソリンスタンドの掃除をしていた。店内もお手洗くまいも限くまなく清掃したうえに、エリア内ばかりでなく道路までいいねいに掃はいているのだった。

原くんの厳しい指導の甲斐あはいあって、客に対する挨拶や態度も見違えるほど板Cについてきた。まだ原くんほどではないが、（Ⅲ）動きまわるさまは以前と別人の感があった。

だが、ときどき原くんに代わって会計を受け持つことはあつても、けつして給油は任せられなかった。
「万ばん一いちのことがあると、たいへんだからね。二カ月ぐらいいは手を出しちゃダメだよ」

と、原くんが許可しなかったからだが、木山さんは素直に従った。
① 原くんがさらに木山さんを見直したのは、四週目に入ったころからだった。

エリアにクルマが入ってきて二人が飛び出すと、道を尋ねるだけということがよくある。原くんは当てがはずれた腹いせに、たいがいはずつきらぼうな返事をするが、木山さんは違う。いいねいにメモ用紙に略図まで書いて教える。いつの間にか、周辺の番地と家々の苗字を書き込んだ手製の地図まで準備していて、じつに細かく案内するのだ。

「そんなにまでしてやらなくてもいいのに、給油に来た客じゃやないんだから」原くんが苦笑していると、木山さんは、

「わたしは好きなんだよ」② こんなことをするのが。……それに、今回はお客でなくとも、次には給油に来てくれるかもしれないしね」そう応えて、楽しげに笑った。

一カ月がすぎたころ、③ さらに原くんはびっくりさせられてしまった。

給油の終わったクルマが、二人に見送られて発進しようとした。ところが、運転席で中年の女性がこわばつた顔つきになった。いくらキーを回してもエンジンが沈黙しんもくしたままなのだ。なすすべもなく見守っている原くんを尻目に、木山さんが駆け寄った。「ちょっと点検してみましよう。……ボンネットを開けてください」

いいながら、すでに手をかけていた。嬉うれしそうにボンネットのなかに頭を突つ込んだ。

「これは、スターターモーターのケーブルがゆるんでいるようですね。……いま直してさしあげますから、お待ちください」

店のなかに駆けていき、ランチとプライヤーを持ってきた。そして、ものの五分とかからずに直してしまつた。おまけに修理代を辞退したうえで、こついい添えたのである。

「近いうちに、お時間があるとき寄つてみてください。……だいがバッテリーのケースが汚れてるようですか、落としてさしあげます」

にこやかに見送つた木山さんに、原くんが、「へえ、木山さんは整備ができるの？」

「いやあ、若いころからカーマニアでね、見よう見真似で覚えただけだよ」

「それにしても、そんなに手を油だらけにして直してやって、修理代を取らないとはね」

「わたしは好きなんだよ」④ こんなことをするのが。……喜んでもらえればいいのさ」

相変あひわらずの言葉を、木山さんはいった。

（内海隆一郎『相棒』より）

問一、(Ⅰ) (Ⅱ) (Ⅲ) にあてはまる最も適切な言葉を、次のア～オよりそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、きびきび イ、しづしづ ウ、こそこそ エ、はきはき オ、のらりくらり

Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ

問二、波線部「エンジンが沈黙した」に用いられている表現技法は何ですか。次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、擬人法 イ、倒置法 ウ、直喩法 エ、隠喩法

--

問三、二重傍線部 A～C の意味として適切なものを、次のア～エよりそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

A 「愛想が つきた」 ……

- ア、愛情をたつぷり注ぐようになった イ、かわいそうになって同情した
ウ、好意がもてずすっかり嫌になった エ、激しい怒りを覚えて責めた

B 「仏頂面」 ……

- ア、穏やかな顔つき イ、不機嫌な顔つき
ウ、恐ろしい顔つき エ、真剣な顔つき

C 「板についてきた」 ……

- ア、そっけなくなってきた イ、力強くなってきた
ウ、丁寧になつてきた エ、しつくり合つてきた

A
B
C

問四、傍線部①「原くんがさらに木山さんを見直した」のはなぜですか。その理由をわかりやすく答えなさい。

--

問五、傍線部③「さらに原くんはびつくりさせられてしまった」とありますが、その理由をわかりやすく答えなさい。

--

問六、傍線部②④「こんなこと」が指し示す内容に共通することとはどのようなことですか。次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、趣味を仕事に活かすこと イ、誰もできないことをやつのけること
ウ、人に喜んでもらうこと エ、ほんのささいなことにも熱中すること

--